

未来洞察(Foresight)活動の取り組みの現状とその活用 -科学技術融合時代の戦略立案を目指して-

日 時 : 2017 年 11 月 24 日 (金) 13 時 00 分 - 17 時 35 分
会 場 : 日本大学・経済学部 7 号館 講堂 (最寄り駅: JR 水道橋駅から徒歩約 5 分)
<http://www.eco.nihon-u.ac.jp/access/>
主 催 : 横幹技術協議会、横幹連合
参 加 費 : 横幹技術協議会会員企業の関係者、横幹連合会員学会の正会員、学生は参加無料、
その他 2,000 円 (資料代含む)。当日資料代: 1,000 円 (希望者のみ)

参加申込: 【事前登録】 オンライン申込 (http://www.trasti.jp/forum/forum50_kyg.html)

【企画趣旨】

第四次産業革命は、これまで構築されてきたデジタル革命の上に、フィジカル、デジタル、バイオロジー領域の融合として出現するものであり、産・学・官から市民に至る世界のあらゆる層がこれに備える必要があると、世界経済フォーラムのシュワブ博士は警告する。

昨今、企業や行政の戦略立案の場で、未来洞察(Foresight)活動が使われ始めている。10~20年先という「中程度」の未来について、「予測」ではなく「心構え」を作るためのシナリオ創造の手立てとして未来洞察は非常に有用である。本フォーラムではそのような活動について、国際活動、企業、学術の3つの視点からの取り組みを紹介し、その効用と特徴の理解に資する。

【プログラム】

	(敬称略) 総合司会: 鷺田 祐一 (一橋大学)
13:00-13:10 開会あいさつ	桑原 洋 (横幹技術協議会 会長)
13:10-15:35 ◆ 趣旨説明 「未来洞察(Foresight)活動の取り組み」	鷺田 祐一 (一橋大学)
◆ 講演 1 「海外における未来洞察の政策・戦略立案における活用状況」	七丈 直弘 (東京工科大学)
◆ 講演 2 「企業における未来洞察活用の深化~新規事業開発から エコシステム構築まで」	栗田 恵吾 (㈱日本総合研究所)
15:35-15:50 休 憩	
15:50-16:35 ◆ 講演 3 「2050年以降を見据えたエネルギー社会ビジョン検討」	高橋 玲子 (科学技術振興機構)
16:35-16:40 休 憩	
16:40-17:30 ◆ 総合討論	登壇者のみなさま 司会: 鷺田 祐一
17:30-17:35 閉会あいさつ	鈴木 久敏 (横幹連合 会長)

横 幹 技 術 フォーラム

未来洞察 (Foresight) 活動の取り組みの現状とその活用

- 科学技術融合時代の戦略立案を目指して -

2017 年 11 月 24 日 (金) 13 時 00 分 - 17 時 35 分

【 講 演 要 旨 】

(敬称略)

趣旨説明	未来洞察 (Foresight) 活動の取り組み
	<p>◆ 鷲田 祐一 (一橋大学 大学院商学研究科 教授)</p> <p>未来洞察 (Foresight) とは何か? なぜ必要なのか? 代表的な未来洞察手法である Horizon Scanning 法の概要と開発経緯を紹介しつつ、本日の趣旨説明をする。</p>
講演 1	海外における未来洞察の政策・戦略立案における活用状況
	<p>◆ 七 直 弘 (東京工科大学 教授・IR センター長)</p> <p>グローバル化の進展、技術革新の加速化などを背景として、世界各国で未来洞察の取り組みが増加している。未来洞察は 1960 年代の勃興以来企業での戦略策定で用いられてきたが、近年では公共部門 (政策、行政、地方政府など) での活用が増加した。本公演ではこれら活用状況の概観を述べる。</p>
講演 2	企業における未来洞察活用の深化～新規事業開発からエコシステム構築まで
	<p>◆ 粟田 恵吾 (㈱日本総合研究所 未来デザイン・ラボ ディレクター)</p> <p>想定外な社会変化 (外部性・不確実性) を企業活動に取り込む未来洞察は、非連続な新規事業 (イノベーション) のアイデア開発の現場で活用されることから始まった。加えて近年では、長期ビジョン開発や社内外での組織的対話のプラットフォームとする等、イノベーションエコシステム構築に援用されている。こうした日本企業における取り組み事例を交えて、今後の活用課題を考える。</p>
講演 3	2050 年以降を見据えたエネルギー社会ビジョン検討
	<p>◆ 高橋 玲子 (科学技術振興機構 研究開発戦略センター 環境・エネルギーユニット フェロー)</p> <p>今後取り組むべきエネルギー分野の研究開発の方向性および具体的なテーマを探索するために、未来洞察手法の一つであるスキャニング手法に基づき、理工系および人文・社会系の研究者が 2050 年以降の将来を見据えて討議するワークショップを開催した。本講演では、討議において提示された将来社会の姿や必要とされる科学技術およびその課題について得られた知見を報告する。</p>
総合討論	日本の未来洞察活動の特徴と今後の展望
	<p>◆ 登壇者のみなさま</p> <p>司会：鷲田 祐一</p> <p>それぞれの講演を受けて、学術、民間、政府の 3 つの視点から、日本の未来洞察活動の特徴 (強み、課題) を議論し、さらに、学術研究支援、起業経営への示唆、政策立案などの視点から、今後の展望についても意見交換する。</p>